

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：24506

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18H01001

研究課題名(和文) 発達障害のある子どもの里親・養親を対象としたペアレント・トレーニングの開発

研究課題名(英文) Developing parent training program for foster parents and adoptive parents of children with developmental disorder

研究代表者

古川 恵美 (Furukawa, Emi)

兵庫県立大学・看護学部・教授

研究者番号：20636732

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、里親・養親のうち発達障害のある(もしくはその可能性のある)子どもを育てている家族を対象としたペアレント・トレーニングのプログラムの開発とプログラムを実践できるファシリテーターの養成である。日本ペアレント・トレーニング研究会が提案する基本プラットフォームが特別養子縁組家庭においても効果があることを確認できたが、保護者をほめていくことをプログラムに明確に位置付けることが重要であることを導き出した。また、このプログラムを里親・養親への支援者がファシリテーターとしてペアレント・トレーニングを実践できるようガイドブックをソーシャルワーカーの協力のもと修正し完成させることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

発達障害のある子どもの里親・養親を対象としたペアレント・トレーニングの開発を多くの研究協力者のおかげで実現することができた。里親・養親対象のために必須とした内容は、1)子どもが里親・養親と暮らすようになってから1年半以降でペアレント・トレーニングを開始すること、2)子どもと暮らし始めたころの「試し行動」はペアレント・トレーニングでとりあげる行動の問題ではないこと、3)里親・養親になるために多くの研修を受けてきているが、子どもの良い行動に注目してほめる習慣がついていなくても当然と捉えて実施すること等であり、研究協力者の養親・里親からは、子育てに安堵できるようになったと感想を多く寄せられた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to develop a parent training program for foster and adoptive families raising (possibly) children with developmental disabilities. We have confirmed that the basic platform proposed by the Japan Parent Training Study Group is effective in special adoptive families. We also derived that it is important to clearly position praising parents in the program. In addition, with the cooperation of social workers, we were able to revise and complete the guidebook to enable foster and adoptive parents to implement parent training as facilitators of this program.

研究分野：子ども学

キーワード：特別養子縁組 ペアレント・トレーニング 発達障害 養親 里親 ソーシャルワーカー 養子 里子

## 1. 研究開始当初の背景

日本は社会的養護を必要とする子どもの施設対応の依存が高い現状にあり、オーストラリアなどの他の先進国に比べて遅れをとっている。里親の委託のさらなる推進をふまえた場合、教育及び情緒・行動上の問題を中心とした医療及び心理的支援を提供する支援体制の検討が求められている。2016年に改正された児童福祉法第3条の2で、児童を家庭において養育することが困難であり又は適当でない場合は、養子縁組による家庭、里親家庭、ファミリーホーム等での家庭と同様の環境における養育の推進が規定された。2017年度からは、里親の新規開拓から委託児童の自立支援までの一貫した里親支援を都道府県(児童相談所)の業務として位置付けるとともに、養子縁組里親を法定化し、研修を義務化している。里親制度は、児童福祉法第27条第1項第3号の規定に基づき、児童相談所が要保護児童の養育を委託する制度である。厚生労働省は「社会的養護の現状について」の中で、要保護児童数の増加に伴い、ここ十数年で、里親等委託児童数は約2.6倍、児童養護施設の入所児童数は約2割増、乳児院が約2割増と報告している。また、社会的養護を必要とする児童においては、障害等のある児童が増加しており、児童養護施設においては23.4%が障害有りとなっている。2013年の里親委託児童総数は4,534人で、そのうち障害のある児童は、注意欠陥多動性障害ADHD3.3%(149人)、学習障害LD0.8%(35人)、広汎性発達障害4.4%(200人)である。(児童養護施設入所児童等調査結果,2015)全国里親委託等推進委員会から、委託された子どもの情緒と行動の問題に関する調査が2016年に報告された。受託時に子どもの対応で苦慮したことは、「多動傾向や不注意」22.9%、「癩癩やパニックを起こしやすい」15.7%、「こだわり行動や視線が合わない」12.1%、「言葉の遅れ」11.4%、「友だちをつくりにくい」10.5%と発達障害の特性と共通するものでもあった。このように、発達障害や発達障害の特性をもつ子どもを育てる里親・養親が増えている。「試し行動」がある里親・養子を育てること自体に困難がある上に、発達障害の特性をもつ子どもを育てる里親・養親の養育困難感は大であり、その対応は喫緊の課題である。発達障害のある子どもと保護者のためのペアレント・トレーニング従来、発達上の困難や発達障害を有する子どもの育てにくさ、育児困難は虐待のリスクを増大させる要素であると指摘されてきた。厚生労働省の障害児支援の在り方に関する検討委員会において、発達支援が必要な子どもの支援はどうあるべきかということが話し合われ今後の在り方についての報告書が出された(2014)。基本理念として地域社会への参加・包容と合理的配慮を子育て支援において推進するための専門的役割の発揮、障害児本人の最善の利益の保証、家族支援の重視があげられている。家族支援のための支援内容のひとつとしてペアレント・トレーニングの推進が示されている。予算措置としても「発達障害者支援体制整備事業」(2014)で発達障害のある方や家族を支援するためペアレント・トレーニングが明記された。このことは地域でペアレント・トレーニングが広がることにもつながった。2016年に日本ペアレント・トレーニング研究会が設立され、質の担保されたペアレント・トレーニングの普及のため基本プラットフォームが提唱された。基本プラットフォームは「子どもの行動に注目してほめる」ことに焦点化し、「行動を『好ましい行動』『好ましくない行動』『許しがたい行動』の3つに分ける」そして『好ましい行動』に注目しほめる機会を増やすことから開始する。次に子どもの「行動の流れ」を整理し行動の成り立ちを理解できるように練習していく。環境調整をしたり、「指示の出し方」を工夫したり、「注目の外し方(待ってからほめる)」をかかわりの技術として習得していくものである。このようにペアレント・トレーニングは「行動理論に沿ったマニュアルがある」「グループで行う」「宿題として家庭課題がある」「ロールプレイ等で技術を習得する」ものとされている。

児童養護施設入所児童等調査結果(厚生労働省,2015)で、児童の今後の見通しが報告され、里親委託児のうち「自立まで現在のままで養育」は、3,105人(68.5%)であり、実親のところへは戻らず、里親家庭での養育が続くとしている。既往研究は、非血縁の親子関係構築過程として、見せかけの時期、試しの時期、親子関係が安定する時期までが前半で、半年から1年近くかかると述べている(岩崎,2016)。委託数年後からは、真実告知、思春期の課題があり、ソーシャルワーカー等が引き続き里親・養親への支援を行なっていることも多い。里親への研修は、発達心理学や小児医学等の講義により子どものケアについての基礎的な知識や技術の向上を図ることが目的であり、発達障害児の支援が含まれているわけではない。全国里親委託等推進委員会の平成26年度調査報告書(2015)の「里親研修でグループ演習を行うファシリテーターのために」では、約9割の自治体がグループ演習を行っていたが、発達障害のある子どもをもつ親へのペアレント・トレーニングは含まれていない。発達障害のある子どもを育てる里親・養親の養育上の悩みやトラブルの対応は、ソーシャルワーカー等の経験の蓄積に頼っている様子がうかがえる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、発達障害のある子どもを育てている里親・養親を対象としたペアレント・トレーニングの開発と、そのペアレント・トレーニングのファシリテーターの養成である。質の担保されたペアレント・トレーニングを提供できるファシリテーター経験者である研究代表者、分

担研究者は日本におけるペアレント・トレーニングの第一人者である児童精神科医、小児科医や小児看護、心理学、ポートフォリオ研究等の専門家である。また里子・養子となった子どもの「試し行動」への指導と支援を行ってきたソーシャルワーカーが研究協力者である。このメンバーがそれぞれの研究課題に取り組み、明らかになった内容を取り入れ、里親・養親を対象としたペアレント・トレーニングを構築する。さらに、そのトレーニングをファシリテーターが実践できるように、具体的なガイドブックや演習シートを作成し、ファシリテーターを養成することである。

### 3. 研究の方法

本研究では、以下の7つの研究課題に取り組んだ。

(課題1) 養親(養子縁組里親期間を含む)が医療機関で困った経験や専門家に相談したいことを明らかにする(養親に対する質問紙調査)

(課題2) 養親(養子縁組里親期間を含む)がソーシャルワーカーに相談した、医療機関で困った経験や専門家に相談したいことを明らかにする(養子縁組のあっせんに関わるソーシャルワーカーに対するインタビュー調査)

(課題3) 「発達障害の有無による試し行動等の差異」の抽出(養子縁組のあっせんに関わるソーシャルワーカーへのインタビュー調査及び文献調査)

(課題4) 先進的な里親・養親支援を行なっている諸外国への視察(イタリア・ニュージーランド・フィンランド)

(課題5) 養親を対象とした「発達障害のある(疑いを含む)子どもを育てる中で必要とする支援」の抽出(養親へのインタビュー調査)

(課題6) 発達障害のある(疑いを含む)子どもを育てる保護者を対象としたペアレント・トレーニングの実施とプログラム内容の検討

里親・養親を対象とするグループあるいは個別での実施

里親・養親以外の保護者を対象としたグループあるいは個別での実施

(課題7) 里親・養親対象としペアレント・トレーニングの具体的なガイドブックや演習シートを作成し、ファシリテーター希望者に対して養成のための研修を実施する。

### 4. 研究成果

課題1については、養親(養子縁組里親期間を含む)が医療機関で困った経験や専門家に相談したいことを明らかにするために養親に対する質問紙調査を実施した。2018年8月、公益社団法人家庭養護促進協会大阪事務所を通じて、20歳までの子どもを持つ養親265組に質問紙を郵送し、無記名で記入を求め事務所宛に返信を求め、その結果を解析した。返送数は134通(回収率50.6%)であった。内訳は、養子の性別が男子61名(45.5%)で平均年齢は7.5歳、養親の平均年齢は養父43.0歳、養母41.9歳であった。(2)「養子縁組成立前に医療施設の受診の際に困った経験」として挙げられたのは、頻度順に「手術等医療行為の同意書に関すること」97.7%、「予防接種の同意書に関すること」88.1%、「子どもの既往歴が不明」82.7%、「母子手帳の記載に関すること」74.2%、「医療券への理解がない」58.6%、「子の姓が違う」53.4%、「子どもの実家族の病歴が不明」48.5%、「縁組成立後」は「母子手帳の記載に関すること」67.2%、「子どもの既往歴がわからない」64.2%、「家族の病歴がわからない」41.0%であった。3)「里親・養親として小児の医療施設で相談したいことは何か」に対する回答では、「思春期の問題」61.2%、「育てにくさ」59.0%、「身体発育に関すること」56.0%、「心の成長に関すること」51.5%、「子どもの病気全般に関すること」50.7%であった。この結果を学会発表し、論文発表した。ペアレント・トレーニングの際に保護者の気持ちを理解するための資料となった。

課題2については、課題1の研究結果をもとに、実際に養親や里親から相談を受けてきたソーシャルワーカーにインタビューし、課題1の結果はソーシャルワーカーが受けている相談とも同様であることが明らかとなった。里親・養親を対象としたペアレント・トレーニングを実施するためにファシリテーターが知っておくべきことを整理するための資料となった。

課題3の研究結果から、「試し行動」と発達障害の特性による「問題ととらえる行動」の相違を明らかにした。特に対応は違うことが適切であることが明らかになった。そのため、ペアレント・トレーニングは、里親・養親と暮らし出してから1年半を過ぎてから実施することという根拠につながった。

課題4として、先進的な里親・養親支援を行なっているイタリア、ニュージーランド、フィンランドの視察を実施した。特にフィンランドでの視察は大変重要なものであった。ネウヴォラの仕組みやフィンランドの電子カルテKantaの情報管理、特別支援学校における取り組み、養子縁組家庭や里親家庭への支援に関するフィンランドで実施したシンポジウム等がこのプログラムの構築の基盤となった。フィンランド視察については雑誌に投稿した。

課題5として、養親にインタビュー調査をし、子どもの学校生活における配慮内容の視点が明らかになった。母子健康手帳の取り扱いや、いわゆる「生い立ちの授業」や「二分の一人入式」での里親や里子・養親や養子の希望する配慮も明らかとなった。学会発表をしている。

課題6の研究は、本研究でもっとも時間をかけ取り組んできたものである。発達障害のある(疑いを含む)子どもを育てる保護者を対象としたペアレント・トレーニングの実施とプログラム内容の検討として、里親・養親を対象とするグループあるいは個別での実施、里親・養親以外の保護者を対象としたグループあるいは個別での実施をし、学会発表等で意見をもらい、里

親・養親対象のペアレント・トレーニングを精練させてきた。

課題7の研究は、里親・養親対象としたペアレント・トレーニングの具体的なガイドブックや演習シートを作成した。演習シートを作成したことで、里親・養親対象のペアレント・トレーニングの普及を進めることができる。

以上の課題1から課題7に取り組み、里親・養親に特化した内容を加えたプログラムを開発した。日本ペアレント・トレーニング研究会が提案する基本プラットフォームが特別養子縁組家庭においても効果があることを確認できたが、保護者をほめていくことをプログラムに明確に位置付けることが重要であることを導き出した。また、このプログラムを里親・養親への支援者がファシリテーターとしてペアレント・トレーニングを実践できるようガイドブックを完成させることができた。

ガイドブックは、里親・養親と子どもの生活を理解するための内容、里親・養親へのペアレント・トレーニングを実施するためのマニュアルを含み、里親・養親対象として必須とした内容は、

- 1) 子どもが里親・養親と暮らすようになってから1年半以降でペアレント・トレーニングを開始すること
- 2) 子どもと暮らし始めたころの「試し行動」はペアレント・トレーニングでとりあげる行動の問題ではないこと
- 3) 里親・養親になるために多くの研修を受けてきているが、子どもの良い行動に注目してほめる習慣がついていなくても当然と捉えて実施すること
- 4) ファシリテーターは里親・養親がペアレント・トレーニング中に発した多くの「言葉」を例として入れこむこと

である。修正を加えた点は、開発協力者である養親から指摘されていた、プログラムにさらに、保護者自身が第三者からほめられる体験ができる内容である。ワークシートを開発し、それを用いて新たな研究協力者を依頼し、事例調査を追加で実施し、ガイドブックに演習シートを加え、プログラムを完成させることができた。演習シートの一部を紹介する。

科学研究 (Research)  
発達障害のある子どもの  
里親を育てるための  
ペアレント・トレーニングの開発

研究分担者  
研究代表者

著者：This work was supported by JSPS KAKENHI Grant Number JP19011001.  
※研究費はJSPS 研究費 JP19011001 の助成を受けました。

もくじ

演習シート 0-1	自分のがんばったところ探し	1
演習シート 0-2	子どもの良いところ探し	2
演習シート ①	ほめてみよう	3
演習シート ②-1	行動をABCで考えよう	4
演習シート ②-2	考えよう	5
演習シート ③	感情を伝えよう	6
演習シート ④	子どもへの伝え方	7
演習シート ⑤	ほめる言葉	8
演習シート ⑥-1	待つからほめる計画	9
演習シート ⑥-2	待つからほめる	10

演習シート 0-1  
「自分のがんばったところ探し」

最近から今まででも振り返り、あなた自身が、「がんばったな」、「よくやったな」、と思う出来事を具体的に思い出してください。

その出来事を他の人に説明できるようにメモ書きしてください。

その出来事に「テーマ」をつけることができたら、ついでにメモしよう。

メモ

1

研究代表者：吉川 真美 / 兵庫県立大学

演習シート 0-2  
「子どもの良いところ探し」

最近から今までのお子さんの様子を振り返り、あなた自身が、「よかったな」、「頑張っていたな」、「うれしかったな」と思う出来事を具体的に思い出してください。

その出来事を他の人に説明できるようにメモ書きしてください。

メモ

2

研究代表者：吉川 真美 / 兵庫県立大学

演習シート ①  
「子どもへの伝え方」

子どもへの伝え方を工夫すると、子どもは自分がその時に取るべき適切な行動を学ぶことができます。

このイラストの場合は、出かける準備を進めるために、どのような伝え方ができるか、考えましょう。

なつきさんは、朝から出かける予定があります。  
朝ごはんは食べました。それ以外の準備は進んでおらず、リビングで寝たままのライオンちゃんも起きています。  
お母さんが、「なつき、ライオンと遊んでいないで早く出かける準備をしましょう！」とキッチンから声をかけています。

七つ子  
お母さん、早く出かける準備をしましょうか？

あなたが、なつきさんに伝えたいお母さんの伝え方を考えてみることに挑戦してみましょう。

7

研究代表者：吉川 真美 / 兵庫県立大学

演習シート ⑥-2  
「待つからほめる」

好きな行動はどのような場合の子どもにとって有効ですか。そして、子どもの好きな行動には適切な対応手段はありますか？つまり、あなたが適切な対応をして、子どもが好きな行動をとるまで待ち、好きな行動が出たら、すぐに褒めたい場面を待ちます。

あなたには、どのように指導（褒めたい行動のヒント）をしますか？

ほめる瞬間はどのような行動をしたときに、どのような言葉で褒めてあげられますか？

10

研究代表者：吉川 真美 / 兵庫県立大学

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Yuko Ishizaki, Emi Furukawa, Yoshito Takenaka, Tomomi Ikeda, Shigeyuki Ajisaka, Megumi Nakamura, Naru Fukuchi, Hidemi Iwasaka, Teruyo Nagahama, Hirohiko Higashino	4. 巻 15
2. 論文標題 Perspectives of support system for foster and adopted children and their parents by pediatricians in Japan.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Child and Adolescent Health	6. 最初と最後の頁 3-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 古川恵美	4. 巻 59
2. 論文標題 講演会報告 発達障がいの子どもの理解と支援について 子どもの発達とペアレント・トレーニングについて 多様な教育的ニーズに応える病弱教育について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大阪の病弱教育	6. 最初と最後の頁 6-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古川恵美	4. 巻 26(3)
2. 論文標題 【知っておきたい子ども虐待と社会的養護～一時保護のその先は?～】養親に対するペアレント・トレーニングの経験から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 チャイルドヘルス	6. 最初と最後の頁 199-202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古川恵美	4. 巻 46(7)
2. 論文標題 【子どもの居場所2023 広がる小児看護の未来】さまざまな状況にある子どもの居場所と支援 特別養子縁組の子どもの生い立ちを家族や本人と共に受け止めていく支援	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 小児看護	6. 最初と最後の頁 829-835
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田 友美、 鯉坂 誠之、 古川 恵美、 石崎 優子、 田邊 敦子、 山上 有紀、 岩坂 英巳	4. 巻 9(1)
2. 論文標題 養子縁組前後における養親の小児医療機関受診時の困りごと	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 摂南大学看護学研究	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 古川 恵美	4. 巻 52(1)
2. 論文標題 特別養子縁組制度と縁組後の支援	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 心と社会	6. 最初と最後の頁 110-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石崎 優子、 古川 恵美、 池田 友美、 柳本 嘉時、 竹中 義人、 金子 一成	4. 巻 124(5)
2. 論文標題 里親制度への医療機関の理解度と里親・養親が小児医療従事者に望むこと	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本小児科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 870-875
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村 恵、 小柳 和喜雄、 矢田 匠、 矢田 明恵、 古川 恵美	4. 巻 17
2. 論文標題 共主体が育まれる学習環境の検討～フィンランドにおける対話による示唆～	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 畿央大学紀要 = Bulletin of Kio University	6. 最初と最後の頁 11～20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24482/00000054	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 古川 恵美、福地 成、中村 恵、池田 友美、鰐坂 誠之、石崎 優子	4. 巻 60(1)
2. 論文標題 養親・里親がとらえている子どもの「試し行動」に関する文献検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 小児の精神と神経	6. 最初と最後の頁 89-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村 恵、古川 恵美、石崎 優子、池田 友美、鰐坂 誠之、福地 成	4. 巻 60(1)
2. 論文標題 子どもの自立に繋がる支援とは ネウボラ4歳児健診を通しての検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 小児の精神と神経	6. 最初と最後の頁 84-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福地 成、石崎 優子、池田 友美、鰐坂 誠之、中村 恵、古川 恵美	4. 巻 60(1)
2. 論文標題 発達障害がある子どもを育てる養親支援の検討 養親インタビューの質的分析からみえること	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 小児の精神と神経	6. 最初と最後の頁 88-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寺川 えり子、小林 穂高、中村 恵、古川 恵美	4. 巻 60(1)
2. 論文標題 フィンランドのネウボラにおける4歳児健診を通しての検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 小児の精神と神経	6. 最初と最後の頁 83-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石崎優子、古川恵美、岩坂英巳	4. 巻 23(3)
2. 論文標題 フィンランドの子どもの医療・福祉・教育から学ぶ 第1回連載にあたって フィンランド視察とユヴァスキュラ・日本国際カンファレンスの概要	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 チャイルド ヘルス	6. 最初と最後の頁 196-199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田 友美	4. 巻 23(5)
2. 論文標題 フィンランドの子どもの医療・福祉・教育から学ぶ(第3回)Paivakoti(パイヴァコティ)における「教育」と「ケア」の実際	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 チャイルド ヘルス	6. 最初と最後の頁 366-368
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村 恵	4. 巻 23(6)
2. 論文標題 フィンランドの子どもの医療・福祉・教育から学ぶ(第4回)フィンランドの幼児教育においてネウボラが果たす役割	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 チャイルド ヘルス	6. 最初と最後の頁 445-448
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鯉坂 誠之	4. 巻 23(7)
2. 論文標題 フィンランドの子どもの医療・福祉・教育から学ぶ(第5回)フィンランドにおける障害のある子どもたちへの空間的支援	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 チャイルド ヘルス	6. 最初と最後の頁 515-518
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 石崎優子	4. 巻 23(8)
2. 論文標題 フィンランドの子どもの医療・福祉・教育から学ぶ(第6回)ネウボラとKantaによる子どもの健康記録	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 チャイルド ヘルス	6. 最初と最後の頁 602-605
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福地 成	4. 巻 23(9)
2. 論文標題 フィンランドの子どもの医療・福祉・教育から学ぶ(第7回)フィンランドにおける里親・養子縁組システム	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 チャイルド ヘルス	6. 最初と最後の頁 680-682
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村 友香	4. 巻 23(10)
2. 論文標題 フィンランドの子どもの医療・福祉・教育から学ぶ(第8回・最終回)インクルーシブ教育の視点からみたフィンランドの英語教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 チャイルド ヘルス	6. 最初と最後の頁 763-765
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石崎優子、古川恵美、池田友美、柳本嘉時、竹中義人、金子一成	4. 巻 124巻5号
2. 論文標題 里親制度への医療機関の理解度と里親・養親が小児医療従事者に望むこと	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本小児科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 870-875
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石崎優子、岩坂英巳、古川恵美	4. 巻 23巻3号
2. 論文標題 フィンランドの子どもの医療・福祉・教育から学ぶ 第1回連載開始にあたって～フィンランド視察とユヴァスキュラ・日本国際カンファレンスの概要～	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 チャイルドヘルス	6. 最初と最後の頁 44-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石崎優子	4. 巻 27(3)
2. 論文標題 ネウボラとフィンランドの電子カルテKantaの情報管理に学ぶこと	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 子どもの心とからだ	6. 最初と最後の頁 360-362
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計29件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 古川恵美, 池田友美, 鯉坂誠之, 中村恵, 福地成, 石崎優子
2. 発表標題 特別養子縁組の子どもの生い立ちを家族と共に受け止めていくペアレント・トレーニングの実践
3. 学会等名 第130回日本小児精神神経学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 古川恵美
2. 発表標題 高校生の子育てに悩む父親に対する養護教諭と協働したペアレント・トレーニング実施の経験
3. 学会等名 第70回近畿学校保健学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 鯉坂誠之, 池田友美, 古川恵美
2. 発表標題 発達障害の親の会に対するペアレント・トレーニングの効果
3. 学会等名 日本質的心理学会第20回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 古川恵美, 石崎優子, 池田友美, 鯉坂誠之, 福地成, 中村恵, 信迫悟志, 柘植雅義, 能智正博
2. 発表標題 発達障害のある子どもの養親を対象としたペアレント・トレーニングの開発
3. 学会等名 日本子ども虐待防止学会第28回学術集会ふくおか大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 寺川えり子, 小林穂高, 池田友美, 石崎優子, 古川恵美
2. 発表標題 ペアレント・トレーニング参加者が語ったこと 共起ネットワークを用いて
3. 学会等名 第40回日本小児心身医学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 寺川えり子, 小林穂高, 石崎優子, 池田友美, 古川恵美
2. 発表標題 発達障害児のペアレント・トレーニングにおいて保護者が子どもを「ほめる」言葉とその場面の検討
3. 学会等名 第69回日本小児保健協会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 古川 恵美、池田 友美、鯉坂 誠之、中村 恵、信迫 悟志
2. 発表標題 特別養子縁組制度と縁組後の支援について - 学校保健の視点からの考察 -
3. 学会等名 第68回 近畿学校保健学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 古川 恵美、石崎 優子、福地 成、池田 友美、中村 恵、岩坂 英巳
2. 発表標題 コロナ禍におけるペアレント・トレーニングの実践報告
3. 学会等名 第39回日本小児心身医学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池田友美、鯉坂誠之、古川恵美、能智正博
2. 発表標題 発達障害のある子どもを育てている養親家族を対象としたペアレント・トレーニングの特徴を抽出するためのビデオ分析の試み. An attempt of video analysis to extract the characteristics of parent training for adoptive families raising children with developmental disabilities.
3. 学会等名 日本質的心理学会第18回大会withソウル
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鯉坂誠之、池田友美、古川恵美、能智正博
2. 発表標題 文献調査に基づく「試し行動」に関する一考察. A study on "Limit-Testing Behavior" based on bibliographic research. An attempt of video analysis to extract the characteristics of parent training for adoptive families raising children with developmental disabilities.
3. 学会等名 日本質的心理学会第18回大会withソウル
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 古川恵美、石本アツ子、八木悦子、柘植雅義
2. 発表標題 コロナ禍の「親の会活動」としてのペアレント・トレーニング
3. 学会等名 日本LD学会第30回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鯉坂 誠之、米地 悦子、池田 友美、石崎 優子、中村 恵、小田原 英義、福地 成、岩坂 英巳、古川 恵美
2. 発表標題 療育支援を受けている子どもを育てる保護者から見たペアレント・トレーニング受講後の指摘
3. 学会等名 第67回 日本小児保健協会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 米地 悦子、鯉坂 誠之、池田 友美、石崎 優子、中村 恵、小田原 英義、岩坂 英巳、古川 恵美
2. 発表標題 児童発達支援センターにおけるペアレント・トレーニングの実践報告
3. 学会等名 第67回 日本小児保健協会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 池田友美、古川恵美、鯉坂誠之、石崎優、中村恵、岩坂英巳
2. 発表標題 養親が医療機関を受診する際に経験した困りごと~ソーシャルワーカーの語りから~
3. 学会等名 第26回 日本子ども虐待防止学会学術集会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Naru Fukuchi, Yuko Ishizaki, Hidemi Iwasaka, Tomomi Ikeda, Shideyuki Ajisaka, Megumi Nakamura, Satoshi Nobusako, Emi Furukawa
2. 発表標題 Parent training program for adoptive parents of children with developmental disabilities in Japan
3. 学会等名 The 23rd World Congress of the International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions (IACAPAP)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Y. Ishizaki, Y. Takenaka, E. Furukawa, T. Nagahama, H. Higashino, T. Ikeda, N. Fukuchi, M. Nakamura, S. Ajisaka, H. Iwasaka, Y. Yanagimoto, K. Kaneko
2. 発表標題 Proposal of support system for foster and adopted children and their parents by paediatric practitioners in Japan
3. 学会等名 The 8th Congress of the European Academy of Paediatric Societies (EAPS 2020)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古川恵美、福地成、中村恵、池田友美、鯉坂誠之、石崎優子
2. 発表標題 養親・里親が捕らえている子どもの「試し行動」に関する文献検討
3. 学会等名 第122回日本小児精神神経学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古川恵美
2. 発表標題 特別養子縁組家庭を対象としたペアレント・トレーニングと評価のためのインタビュー調査の経験
3. 学会等名 日本質的心理学会 第16回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古川恵美
2. 発表標題 特別養子縁組で家族となった親が困惑する「生い立ちの授業」
3. 学会等名 日本健康相談活動学会第16回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古川恵美、鎌塚優子
2. 発表標題 児童発達支援センターに通所する子どもの 親が疲弊する状況
3. 学会等名 日本健康相談活動学会第16回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石崎優子、古川恵美、池田友美、 金子一成
2. 発表標題 里親・養親への調査にみる里子の医療制度に対する医療者の理解度と小児精神神経学領域の専門家が果たす役割
3. 学会等名 第122回日本小児精神神経学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石崎優子、古川恵美、池田友美、 柳本嘉時、竹中義人、金子一成
2. 発表標題 養親へのアンケートから見た里親制度で養育される児童に対する医療機関の理解度
3. 学会等名 第122回日本小児科学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石崎優子、古川恵美、山上有紀、田邊敦子、池田友美、竹中義人、長濱輝代、金子一成
2. 発表標題 わが国の里親制度に対する医療従事者の理解度：アンケート調査から見た 里親・養親が医療機関に望むこと
3. 学会等名 第66回日本小児保健協会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田友美、鯉坂誠之、古川恵美、石崎優子、山上有紀、田邊敦子
2. 発表標題 養親が医療機関を受診したときに経験した困ったことー養子縁組の成立前・成立後の比較ー
3. 学会等名 第66回日本小児保健協会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村恵、古川恵美、岩坂英巳、石崎 優子、池田友美、鯉坂誠之、福地成
2. 発表標題 子どもの自立に繋がる支援とはーネウボラ 4 歳児健診を通しての検討ー
3. 学会等名 第122回日本小児精神神経学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福地成、石崎優子、岩坂英巳、池田友美、鯉坂誠之、中村恵、信迫悟志、古川恵美
2. 発表標題 発達障害がある子どもを育てる養親支援の検討かー養親インタビューの質的分析からみえることー
3. 学会等名 第122回日本小児精神神経学会
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 寺川えり子、中村恵、小林穂高、古川恵美
2. 発表標題 フィンランドのネウボラにおける4歳児健診の実際
3. 学会等名 第122回日本小児精神神経学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古川恵美、石崎優子、田邊敦子、山上有紀、金子一成
2. 発表標題 発達障害のある思春期の子どもを養親を対象としたペアレント・トレーニングの効果
3. 学会等名 第65回日本小児保健協会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Naru FUKUCHI1, Yuko ISHIZAKI, Hidemi IWASAKA, Tomomi IKEDA, Shigeyuki AJISAKA, Megumi, NAKAMURA, Satoshi NOBUSAKO, Emi FURUKAWA
2. 発表標題 Interviewing Adoptive and Foster Parents who have children with Developmental Disabilities: Preliminary Interview for Developing Special Parent Training Programs
3. 学会等名 7th World Congress of Asian Psychiatry (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 伏見裕子、古川恵美、鯉坂誠之 他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 北樹出版	5. 総ページ数 160
3. 書名 ふらっとライフ それぞれの「日常」からみえる社会	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石崎 優子 (Ishizaki Yuko) (20411556)	関西医科大学・医学部・教授  (34417)	
研究分担者	福地 成 (Fukuchi Naru) (50641958)	東北医科薬科大学・医学部・講師  (31305)	
研究分担者	池田 友美 (Ikeda Tomomi) (70434959)	摂南大学・看護学部・教授  (34428)	
研究分担者	鯉坂 誠之 (Ajisaka Shigeyuki) (60634491)	大阪公立大学工業高等専門学校・その他部局等・准教授  (54401)	
研究分担者	中村 恵 (Nakamura Megumi) (90516452)	畿央大学・教育学部・教授  (34605)	
研究分担者	信迫 悟志 (Nobusako Satoshi) (50749794)	畿央大学・健康科学部・准教授  (34605)	
研究分担者	能智 正博 (Nochi Masahiro) (30292717)	東京大学・大学院教育学研究科(教育学部)・教授  (12601)	
研究分担者	柘植 雅義 (Tsuge Masayoshi) (20271497)	筑波大学・人間系・教授  (12102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	岩坂 英巳  (Iwasaka Hidemi)  (70244712)	奈良県立医科大学・医学部・研究員    (24601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			